

病院短信

『帰宅願望』

1病棟看護師長

渡辺 仁美

西日の強さが日毎に増し、夏空がまぶしく感じられます。七月から職員全員がクールビズ姿となり、名札が付いていませんのでご家族の皆様には不都合をお掛けするかもしれませんがご容赦下さい。

認知症の患者さんが年々増加していますが、高齢者がなりたくない病気一位に「認知症」が選ばれたといわれています。超高齢化社会を迎え、二〇二五年には高齢者五人に一人が認知症になると言われています。今以上に認知症の方が身近になることでしょうか。

認知症看護に携わり十一年目となります。認知症の患者さんの訴えの中で、対応が難しいと感じていることは『帰宅願望』です。帰宅願望は、夕方近くになるとソワソワしはじめ「帰りたい」と訴える場合が多いとされていますが、毎朝私が出勤すると、数名の患者さんが待ち受けていたように交代で「そろそろ帰りたいのですが」「早く帰って子供の世話をしないと」と訴え、出口を探して徘徊したり、エレベーター前でドアが開くのを待っていたりします。他にも「仕事に行かないと」「ここを辞めたいのですが」など、帰りたい理由は人によって違いますが、本人は本当に帰りたいのです。それは普通の正当な要求なのだと思います。「帰りたい」と言い始めた背景には何があるのかを考えながら「帰りたいのに、帰してもらえない」という患者さんの思いに寄り添い、それぞれの患者さんに合った対応を心掛けています。

私は中学卒業後、青森から遠く離れた群馬県の看護学校へ入学、入寮しました。不安と孤独感から寂しくて実家が恋しくて、毎日のように押し入れやトイレで泣き、先輩を困らせていました。ホームシックです。十五歳の私と認知症の患者さんとは違うかもしれませんが、患者さんにとっても住み慣れた居場所を離れ新たな場所（病院）での生活は、人間関係までもリセットされてしまうことでは同じなのだと思います。

認知症は一人お一人の症状も性質も違います。正解はありませんで、教科書通りにやって上手く行かないこともあります。そこで、各病棟での対応が難しいケースについて意見交換を行いスタッフが統一したケアを行えるよう、院内研修会や日々のカンファレンスを行っています。対応の中で特にしてはいけないと言われている

①訴えを無視したり、叱ったりしない ②理屈で説得しようとしめない ③訴えを否定しない ④「帰れない」という言葉をかけない

を常に念頭に置き、患者さんのペースや症状に合わせて対応するよう心掛けています。

『帰宅願望』は居心地が悪いことも原因の一つとされています。私たちの対応によっても起こる周辺症状とも言われています。また「鍵を開けてくれない」「電話も自由に掛けられない」などの不満や不安から寂しい・むなしと思うようになり、居心地の悪い場所からの逃避とも言われています。大事なことは「帰りたい」と言う患者さんを無理に止めるのではなく「ここもいいね」と思えるようなケアを目指し、患者さんが笑顔で楽しく安全に過ごして頂けるよう常に努力し実践していくことです。今年の夏は暑くて長いと聞いております。熱中症や脱水症にならないように皆さまも十分な水分と睡眠をとり、この夏を快適に切り抜けましょう！

看護のひろば



1病棟看護師

大西 景子

梅雨の季節がやってきました。気温も湿度も徐々に上がり、ジメジメして過ごしづらい時期ですね。さて梅雨の時期は何かと体調に変化が現れ易いようです。人体は気温の変化に合わせて体温を調整していますが、梅雨の時期は“雨の日は肌寒く晴れ間は暑い”ため、特に気温差が大きくなります。雨により湿度が上昇すると身体の熱を逃がす機能が上手く働かなくなり体調不良を引き起こしてしまいます。また気分の憂鬱、身体のだるさ、風邪も引き易くなるなど、身体だけでなく精神面にも影響があるようです。

心身の調子を崩さないためにも『いつもより身体は疲れている』ことを自覚しましょう。そして完全な栄養と十分な睡眠・休息をとり、元気に梅雨を乗り切りましょう。



いきいき介護



2病棟介護福祉士

石川 久仁江

患者さんの大多数は全部義歯だったり部分入れ歯だったりします。歯を磨かないと歯に歯垢が付着し、唾液中のカルシウムと反応して石灰化してしまいます。一度石灰化すると歯茎が炎症を起こし、最後には歯が抜け落ちてしまう事もあるそうです。また口内の細菌のうち悪玉菌に含まれる歯周病菌は、口内環境が悪化すると口の中の血管を突き破り体内に侵入しやすくなり、それによって脳梗塞やガン・心筋梗塞などを引き起こす可能性もあるそうです。

今後も自分の歯で美味しいものを味わって食べて頂くために、患者さんには毎食後欠かさず歯磨きのサポートをしています。



事務屋の独り言

常務理事 事務局長

瓦井 洋

『スマートドラッグ』

私（昭和十八年生まれ）がいたずら盛りの子供の頃、いたずらや悪さをして近所のおばさんやおじさんに叱られたとき、最後に言われたのがこの言葉でした。『やっちゃいけないって何度言ったら分かるの！まったく！馬鹿につける薬はないのかね！』

いいえ、今はあるんです。馬鹿につける薬が…。

そんな薬が『スマートドラッグ』、いわゆる『スマドラ』です。一九九〇年代に「頭がよくなる」「記憶力が向上する」などと本の中で紹介され、その後、米国で爆発的に流行した薬です。

もちろんこういう事にはとても慎重な日本ですから、その「有効性」や「安全性」が確認されていないとして未だに承認しておりませんし、日本では製造もされていません。

ところがこの『スマドラ』が今、中高生の間で密かに流行、蔓延しているというのですから驚きです。

集中力を高め、なお且つ思考力や記憶力を高め、しかも中高生でも安易に買える値段（個人輸入）となれば、それこそ一石三鳥どころか四鳥ですから、日々勉強に追われる中高生には、神様の贈り物にも思えるのかもしれませんが…。

この『スマドラ』、脳の機能に作用し、思考力や記憶力にもかかわるアセチルコリンを増大させる効力があるそうで、「てんかん」や「認知症」の治療薬にも使われているそうです。

つまり、他の病気に使用されている薬の一部分の効力を利用しているとも言えるのです。

そんな『スマドラ』の規制にやっと思労省が乗り出しました。先月二十二日に開かれた同省の部会で、健康被害や乱用に繋がる恐れのある医薬品が個人輸入され、出回っている可能性があるとの報告を受け、危険性の高い薬の個人輸入を原則禁止するということを確認したというのです。

『スマドラ』の国内に出回っている種類や健康被害の実態は、正確にはまだ分かっていないようですが、健康な若者が勉強や仕事の効率を上げたい、と本来の目的からは外れて使うケースがある、と問題視されたわけです。この日の部会で同省は輸入されている薬をインターネットなどで調べ、医学界や同団体から意見を聞く説明、健康被害や依存症につながる恐れがある場合には医師の処方箋や指示がなければ個人輸入を認めないという方針を示しました。

どんな薬であれ副作用のない薬は一つもないのが医療界の常識ですが、この『スマドラ』の副作用については、使用した一部の高校生から「集中力や思考力が高まる」や「眠気が来ない」との意見もある一方で「薬が切れるとイライラする」などの、まるで覚せい剤使用者みたいな感想も聞かれるといえますから本当に怖いのです。

若者よ、勉強や仕事の効率を上げるために安易な方法を取ってはいけません。勉強をすること、仕事をするために人生の意義があるのでから。



